

天皇陛下御在位二〇年をお祝いする

# 「国民祭典」

神樂区 小野塚い子（松之山町出身）



昭和三十四年四月十日、私は父に連れられてご成婚をお祝いする為、皇居前の大通りで馬車パレードを待っていました。きらびやかで素敵なお馬車パレードでした。

それから五十年を経て十一月十二日、皇居前広場で行われた天皇陛下ご在位二十年をお祝いの「国民祭典」に参加した一人として二重橋の上にお出ましになる両陛下を仰ぐことになりました。入場チケットを手に早々と三時前にゲートに到着。厳重な持ち物・身体チェックを受け、「日の丸」「提灯」「レインコート」を配られ、指定された位置で席を確保、大きな画面に映し出される第一部の奉祝まつり出演団体（しばた台輪・佐渡おけさ流しを含む全国からの十九団体）の路上パレードを見ながら祝賀式典の始まるのを待つこと三時間。

司会者の「今の気温は十二度と冷え込んでいます」というお天気発表に寒さに凍えていた私は、より一層の寒さを体感してしまいました。平沼赳夫氏の開会宣言に始まり、国家独唱、各界代表のお祝いメッセージ、奉祝演奏と大画面に映し出されます。佐渡の鬼太鼓座の演奏は大太鼓に向かう締め込み一本の緊張感ある後姿と夜空に響き渡る太鼓の音とリズムは素晴らしいものでした。同郷の者として嬉しかったです。

配られた「提灯」に係員の指導で火を灯す頃にはとつぷりとも暮れ、寒さも一段と強まる六時三十分、「二重橋の上」に両陛下のお出ましです」との司会者の声に、会場は日の丸が頭上に揺れ、火の灯った提灯も高く上げられ、「ウオー」という地響きに似た歓声が上がりました。私の位置からだど肉眼では親指ほど

の遠さであったが、大画面に大きく映し出された両陛下のご様子は、いつもの優しさに溢れる穏やかなお姿でした。主催者に続き、鳩山内閣総理大臣の祝辞、天皇陛下御在位二〇年奉祝曲、組曲「太陽の国」はオーケストラ演奏による第一部「太陽の種」ダンスの加わった第二部「太陽の芽」歌詞のついた第三部「太陽の花」の三分構成でした。「太陽の芽」「太陽の花」はEXILEが踊り、歌いました。彼らはテレビにも良く出ていて、私もダンスの上手なグループと知っていたので、とても嬉しかったです。感動があり今でも心に残るダンスと歌でした。国家斉唱の後、天皇陛下のお言葉がありました。一言一言に会場内は、「ドオー」という歓声が上がります、日の丸が揺れます。特に「ひどく冷え込み皆さんには寒くなかったでしょうか」のお言葉には、ひと際大きな歓声と日の丸の揺れでした。私たちを氣遣ってくださる陛下の優しさに心打たれ、ホンワカとした気持ちになりました。

両陛下ご退出の時は、万歳の声が止む事無く幾度も夜空に響き渡りました。

家に帰り、テレビニュースで報じられる日の丸の揺れを見て、私もこの中の一入だったことを認識し、幸せな時間を過ごせたことの満足感を味わいました。それと同時に、今の社会では祝祭日に国旗を掲げる事をしなくなっていること、大

切に思っていることを残念に思いました。もつときらんと国旗「日の丸」を考え伝えていけるようになったらと思います。我家では、家主のこだわりで元旦を始めとして「ハタビ」には玄関前に「日の丸」を掲げています。

